

# チェルノブイリ通信

2014年12月10日

No.98

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26バステル館203号

TEL/FAX 092-944-3841 Email jimmu@cher9.to

ホームページ <http://www.cher9.to/>

■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328

楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104

住信SBIネット銀行 法人第一支店(支店番号106)(普)1030416



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、  
現地から求められる医療支援を行います。

この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



葉巻をくわえるウラジミール先生。  
プレスト市のメインストリートにて

## 特集:ベラルーシ訪問帰国報告

スタートから5年  
大きく進展するベラルーシでの内視鏡手術

医療支援の歴史をふり返る(4)

2015年カレンダー販売のご案内

ロシア・ベラルーシ料理教室報告

連載 理事のすっぴん部屋(3)

コーヒーキャンペーンのご案内

募金者のお名前とメッセージ

●特集●ベラルーシ訪問帰国報告

## スタートから5年

# 大きく進展するベラルーシでの内視鏡手術

今年も9月20日より29日まで、医療支援として17年目となるベラルーシ訪問を行いました。これまでの訪問では日本医科大学の学生やジャーナリストの同行があり大人数となることもありましたが、今年は今地病院名誉院長・日本医科大学名誉教授、清水一雄先生をはじめ5名での訪問となり、また、内視鏡手術を中心とした比較的余裕のある日程となりました。2009年のプレスト第9回検診の際にプレスト州立病院でのベラルーシ初の甲状腺内視鏡手術から5年が経過しました。その間に状況は大きく進展していることを実感する訪問となりました。

報告／河上雅夫（CMN理事長）



上)ベラルーシ赤十字にて、カルヴァノフ総裁を囲んで  
下)プレストでの甲状腺内視鏡手術

今回訪問したのは清水先生のほか、日本医科大学付属病院病理部・村瀬幸宏臨床検査技師、ロシア語医療通訳・コーディネーターとして山田英雄さん、自費参加として2003年、2005年、2006年の検診にも参加したところのある産婦人科医・高橋恵理佳さん、CMNスタッフとして河上の5人です。また、現地での通訳としてベラルーシに留学中の田中仁さんが加わり、私たちの大きな助けとなりました。

成田からモスクワを経由してその日のうちにミンスクに着き、ホテルで一泊したのち列車でプレストに到着したのは21日のお昼すぎでした。そして、通訳の田中さんに

お茶会に来ませんかと案内されたのは日本をイメージする飾りなだが壁に貼ってある部屋でした。お茶会の主人は、アレクセイ・クプリヤコフさん。出席したのは、他にボディガードのように体格のいいイリヤさんと日本人では田中さん、私、村瀬さん、高橋さん。アレクセイさんはあるとき西行の詩のロシア語訳を読んで日本文化に興味を持ったとのことでした。日本語を覚えてたくて俳句などはいくつか暗記するようになったが、会話はとても難しいといえます。お茶の作法は田中さんが教えてもらいました。田中さんはたまたまおばさんがお茶をやっていたので少し知っていたそうです。ベラルーシに来てお茶会に出席することになるとは夢にも思わず、貴重な体験

となりました。

22日にはブレスト州立内分泌診療所を訪問、アルツール所長、ウラジミール医師とは半年ぶりの再会となりました。この診療所は昨年とは違う場所にあつて、聞くところ、これまでの診療所を改築するため一時移転しているという

ことです。この日、手術前検査のために診療所に来られたのが、翌日に甲状腺内視鏡手術の予定されているスベトラーナさんという女性です。84年生まれで英語がうまい彼女は、甲状腺内視鏡手術のいいところは入院が3日で済むので授乳する子供がいる身にとっては大変ありがたいということでした。



次やってきたのが2007年に日本医科大学で甲状腺内視鏡手術を受けたアレーシャさん（過去の紙面では、アリオーシャさんと表記）です。今回は7カ月になる子供のフリリップちゃんを連れてきました。彼女がベラルーシ人として初めて甲状腺内視鏡手術を受けたのは2007年。その前年の検診でがんが見つかったために、清水先生を

はじめ日本医科大学関係者の努力によって、日本での手術となったのです。その後、我々の検診のたびに清水先生の術後検診を受けてきたことはこれまでの通信に紹介したとおりです。そして、無事にこのようなかわい子を出産できたのは、関係者の一人として大変うれしいことです。

最近のベラルーシ訪問では、日本からの専門家が中心となって検診を行うのではなく、ブレスト州立内分泌診療所が行う検診に対して技術的な支援を行うという方向に変わってきています。ベラルーシでは細胞診がギムザ染色という方法で行われており、そのための十分な参考書がないことを知り、2年前には『甲状腺の細胞診』という教科書をロシア語に翻訳して提供しています。23日にはこの教科書に基づいた講義をブレスト州立内分泌診療所と悪性腫



執刀医の清水一雄先生

瘍病院のスタッフに対して行いました。講師は2011年以来の訪問となった臨床検査技師の村瀬幸宏さん。『甲状腺の細胞診』に使われている写真を使い、ギムザ染色のポイントを解説されました。

23日にはベラルーシ国内で11例目となる甲状腺内視鏡手術が行われました。清水先生が開発した内視鏡手術では首の部分の皮膚を、器具を使って引っ張り上げるのですが、そのために専用の手術機器類を日本から持参していました。ブレスト州立病院のイーゴル医師は独自の器具を開発し、昨年手術でも問題ないことが確

手術翌日の回診にて。元気な姿のベラルーシ人さん



医学再教育アカデミーでの授与式を終えて



認されたために日本から器具を持つていく必要が無くなり、空港の手荷物検査でのトラブルを回避できるようになりました。

そのイーゴル医師は、最近では週に2〜3例、年間に100例もの甲状腺内視鏡手術を行っているということ。ベラルーシで甲状腺内視鏡を始めて5年、ようやくこの手術がベラルーシに広まっていることを実感させる情報に接しました。

翌日にはブレスト州立病院に入院中のスベトラーナさんを訪問しました。手術後1日というのにいたって元気で、清水先生の術後診察でも問題なく、直後に退院されたそうです。

25日は列車でミンスクに戻り、26日は日本大使館、ベラルーシ赤十字、医学再教育アカデミーと関係機関の訪問が続きました。ベラルーシ医学再教育アカデミー訪問は今回の日程で最重要事項でした。昨年の訪問の際に、清水先生が2009年〜2012年のベラルーシにおける甲状腺内視鏡手術についての論文を提出してあり、名誉医学博士号の称号が授与されたのです。今回はその授与式と清水先生の記念講演が行われました。

この名誉称号については、名誉教授と同等の意味を持つとの説明がされています。そして、これ

は清水先生の日本国内の業績ではなく、ベラルーシにおける甲状腺内視鏡手術の実施が業績として認められたということ。ひいてはCMNのこれまでの活動が認められたということ。

ブレスト州立病院のイーゴル医師の手術件数の飛躍的増大と、今回の名誉称号の授与を合わせて考えるなら、甲状腺内視鏡手術の開始から5年にしてようやくこれまでの成果が開始したものと言えるでしょう。

清水先生の講演には多くの若い医者が集まり、熱心に聞いていました。通常なら清水先生の紹介、通訳にはラリサ・ダニロバ教授がするところですが、この日は出張のため息子のマキシムさん（右写真向かって左）が行いました。そのほか、出席者の中には我々が医療支援を始めた当時のベラルーシ赤十字総裁の息子であるアレクセイ・ロマノフスキーさん（同右）の姿もあり、また、日本人女性と結婚したばかりのミンスク医科大学の外科医、セルゲイ・ヤ

クボウスキーさんもおられました。セルゲイ医師は昨年5ヶ月間、清水先生の日本医科大学内分科外科に留学し、内視鏡手術の修練を受けています。こういう若い先生方を見ると、医療支援を始めて17年という年月を感じざるをえません。

27日にはのぞみ21のナターシャさんと会って民芸品を受け取り、会員の皆さんからのカンパを渡すことができました。そして、私たちの古くからの友人であり、たびたび通信の表示を飾っているリユータさん、アンナちゃん親子と再会して旧交を温めることができました。

また、ベラルーシを旅行中の加藤真大さんがホテルに訪ねてきて、チェルノブイリ原発事故のことや我々の支援活動について関心があるということ、その質問に答えました。

28日には早朝の便でモスクワに向かい、ベラルーシでの全日程を無事終了することができました。

## 検診に訪れたリュドミラさんへのインタビュー フクシマは他人事とは思えなかった

プレスト州立内分泌診療所にて取材に応じてくれたのは、ヤツケービッチ・リュドミラ・イヴァーナブナさん。1961年生まれの53歳。2008年の検査で甲状腺がんの疑いが見つかった以来、一年半か2年に一度こちらの診療所へ検査に訪れているという。

「最初に検査を受けたのは10年前です。前は2012年に来ました。本当は1年おきに来たいの



中央がリュドミラさん。高橋先生(右)と通訳の田中さんにも取材に協力していただきました。

ですが、なかなか思い通りに行きません。今日は娘と一緒に車で片道120kmの道のりを1時間半かけてやってきました。おもに超音波検査をしてもらっています」

1986年のチェルノブイリ原発事故当時、リュドミラさんは原発から約500kmに位置するプレスト州北部で暮らしていた。彼女には現在29歳と24歳になる二人の娘さんがいる。長女はチェルノブイリ前に生まれた子で、次女は事故後の出産となった。

「二人とも小さな子どもがいまです。ただ妹の方には甲状腺がんの疑いがあり、地元の病院に通っています。今のところ甲状腺以外には問題はありません」

現在も事故当時と同じ地域で生活するリュドミラさんにとって、一番の問題は医療へのアクセスが容易でないことだと話す。

「甲状腺がんを治療するスペシャ

リストの医師が少ないことが最も心配です。例えば私の町では、1週間に一度しか隣町から専門医が来ることはありません。甲状腺に問題がある人は結構多いのですが、誰しものが必ずその先生に診てもらうことは難しい状況です。もちろん診断と最低限の治療を受けることはできますが、手術が必要などときはここ(州都プレスト市)に来るかミンスクまで行くことになります。

正確には覚えていませんが、事故から2週間くらい経ってやっと放射能汚染のことを知ることができました。噂はすぐに伝わりましたが、政府の公式な発表は遅かったように思います。子どもは何も知らずに汚染された砂場で遊んでいました。チェルノブイリからは離れた地域で暮らしていますが、個人的には放射能の影響はあると思います」

また3年前の福島での原発事故について聞いてみると、もちろん知っているという答えが返ってきました。

「私たちもチェルノブイリの影響

を受けたから他人事と思えず、福島関連のニュースには敏感になりました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。お互いの国で放射能の影響がないことを祈っています」

現在福島では、被曝の影響を考え、将来子どもを産むのをためらっている人たちがいるという話がある。それについてリュドミラさんはチェルノブイリの経験者として次のように語ってくれた。

「私はチェルノブイリの事故から5年経って子どもを産みました。ベラルーシの方が日本人よりリスクを冒すのが好きかもしれませぬ。でも子どもを産むことを怖がらないでほしい。人々が安心して出産に向き合えるようにするためには日本政府の協力が不可欠です。そしてそれは絶対成功するべきだと思います」

社会貢献支援財団「社会貢献者表彰」受賞記念

## 医療支援の歴史をふり返る

最終回…細胞診断技術の向上を目指して



1997年に本格的にスタートしたベラルーシでの医療支援活動の歴史をふり返ります。最終回では、甲状腺がんを早期に発見するための病理面の支援活動と今後の展望について紹介します。

過去の連載で見てきたとおり、当初の目標のひとつに穿刺吸引技術（注射器のような器具でがんの疑いのある甲状腺の細胞を採取する技術）を伝えることが挙げられた。多くの方々の協力、そして現地医療関係者の熱意により、その技術レベルは日本の医師を超えるレベルにまで達したと評されるようになった。

今年のベラルーシ訪問では、前回本連載で取り上げた甲状腺内視鏡手術について大きな進展が報告された。この治療面とともに、甲状腺がんを早期に見するためには採取した細胞をみて、がんであるかどうかを判定する能力（病理学）も重要となる。そこで2012年、ベラルーシで日常的に用いられているギムザ染色を中心とした診断症例集



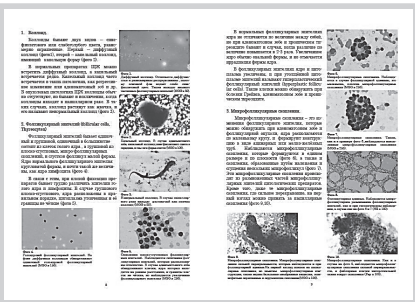
の教科書を作成し、ベラルーシの医療機関へ寄贈することとなった。これは長年活動にご協力いただいている渡會泰彦臨床検査技師（日本医科大学附属病院病理部）からの発案で、2011年に『甲状腺の細胞診』という染色した画像が多数掲載されたテキストを露訳し、製本するというプロジェクトがスタートした。この間には、テキスト原本の著者である越川卓先生のご厚意をはじめ、



翻訳作業と監修を請け負ってくださったロシア語医療通訳の山田英雄さん、翻訳作業に協力していただいたイリーナさん、また編集作業では、CMNのベラルーシ訪問事業にも何度も参加され、ロシア語にも精通されている福岡由紀子さんなど、多くの方々のご協力・サポートに支えられた。



今年9月の訪問では、このロシア語版の教科書を題材として、ブレスト州立内分泌診療所、悪性腫瘍病院病理部のスタッフを対象に村瀬幸宏臨床検査技師による講義が行われた（詳細は2〜4ページで報告）。現在ブレスト州立内分泌診療所には、これまでの移動検診で採取されたがんの標本（プレパラート）が多数保管されている。ただ染色技術について現地関係者からは「まだ十分ではない」「もっと技術をあげたい」という声が聞かれる。更なるステップアップを目指す彼らの熱意に応え、一人でも多くの被災者へ支援の手が届けられるよう、これからも活動を展開していきたい。（おわり）



ロシア語に翻訳された症例集教本



講義を聴く病理部のスタッフたち  
(2014年)

# 2015 CALENDAR

## 「ナジェージダ(希望)」

2015年  
カレンダー



写真家・映画監督の本橋成一さんの写真集『ナジェーの村』を題材にしたオリジナルカレンダーです。

収益金はチェルノブイリ、福島での原発事故被災者への支援にあてられます。

ご注文・お問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ!

- ・カラー28P 中綴じタイプ(※写真はモノクロ)
- ・サイズ:420mm×295mm(使用時)
- ・制作:チェルノブイリ医療支援ネットワーク
- ・協力:ポレポレタイムス社

¥1,000-  
(税込・送料別)

### 月ごとの風景を眺めながら、被災地へと想いを馳せてみませんか?

カレンダーに使用している写真は、本橋成一さんの写真集『ナジェーの村』に収録されているものです。

チェルノブイリ原発事故によって国土を汚染されたベラルーシ共和国では、500以上の村が地図からその姿を消しました。その一つであるゴメリ州チェチェルスク地区ドゥヂチ村を舞台にした『ナジェーの村』では、多くの住民が故郷を離れる中、この地でたくましく暮らし続ける六家族の日々が映し出されています。



January

冬はタバコづくりにたっぷり時間がかけられる。



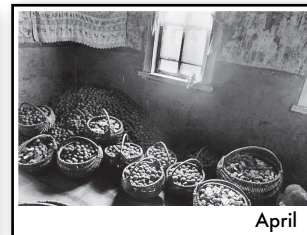
February

チャイコバーバと2匹の猫。冬ごもりの仲間。



March

チャイコとコーリヤは小学校からの同級生だ。



April

今年も豊作でありますように。この種いもが何倍にもなりますように。



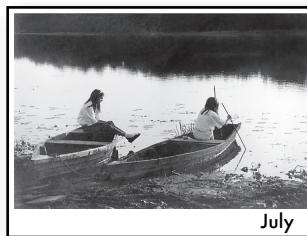
May

じゃがいもの植え付けが終わるころ、ゲートの外の村々ではポルカ祭がはじまる。(ポレシエ村)



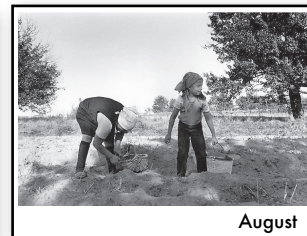
June

どこかで結婚式が始まると、村中がお祭りさわぎになる。(ストルブン村)



July

ナージャとエレーナは、村はずれを流れるソーシュ川で、暗くなるまで遊び続ける。



August

ナージャは畑仕事が好きだ。たいがいのごとは母さんから教わった。



September

ナージャにとって放射能のことより、友だちがいなくなったことの方が悲しい。



October

いつもの場所に腰をすえるチャイコバーバ。今日は玉ねぎの皮むき。



November

食用の赤かぶ、家畜用の白かぶ。同じ畑で仲良く収穫される。冬を越すための大事な食料。



December

町の家にはまだバーニャ(サウナ風呂)がないので、週末になると村に帰る。

#### ●送料について(別添チラシもあわせてご覧ください)

総額5000円以上で送料無料となります。支援コーヒーやのぞみ21商品等との組み合わせも可能です。5000円未満の場合の送料は下記のとおりです。

\*カレンダー1冊のみご注文の場合:【全国一律160円】メール便で発送します。納品請求書は別途郵送します。

\*その他の場合:【500~1200円】原則として宅急便で発送します(例:カレンダー2冊以上、カレンダー1冊+コーヒー、など)



# ニーナさんと学ぶ ロシア・ベラルーシ料理教室



11月2日(日)  
古賀市中央公民館  
研修棟106号室



11月2日(日)、事務所を構える古賀市にて料理教室を開催しました。会員さんや市内にお住まいの方など計10名の方にご参加いただきました。

これまでで開催した料理教室では、料理本を参考にしたり、ベラルーシの方から教わったレシピに沿って参加者が自由に創作するという形が多かったですが、今回はもともと本場の味を楽しんでもらえるようにという期待を込めて、ロシア人の方にゲストとして参加していただきました。

講師を務めてくださったのは、シベリア地方のイルクーツクご出身のニーナさん、セルゲイさんご夫婦。普段は福岡市中央区大名にてロシアンレストラン「ニーナ」を運営されています。メニューはボルシチ、お米のサラダ、ブリヌイ(ロシア風クレープ)の3品。数名のグループに分かれ、講師陣の実演を参考に楽しく調理を行いました。

一口にボルシチといっても、地域によってその味はさまざま。今回はニーナさんにシベリア風の「おふくろの味」を再現していただきました。またボルシチに欠かせないビーツ(サトウダイコン)を加えるタイミングな



**RUSSIAN RESTAURANT NINA**

**TEL:092-714-0215**

〒810-0041  
福岡市中央区大名1-10-16  
ラガッツァ大名3F  
(営業18:00~02:00・月曜定休)

ベチカ(ロシアの暖炉兼オーブン)が置かれた古きよきロシアの家庭の雰囲気を楽しむことのできるお店です。大名にお店を構え、今年で5周年を迎えられました。

ど、色々とアドバイスをいただき大変参考になりました。予定時間をオーバーしてしまいました。参加者からは「本場のロシア料理を教えていただき、とてもおいしかった」「わかりやすく調理法を教えてもらえたので、家でも作れそう」といった声も聞かれました。次頁にレシピを紹介していますので、ぜひ皆さんもチャレンジされてみてください。今回は2015年1月11日(日)にふくふくプラザ(福岡市中央区荒戸3丁目、地下鉄姪浜線「唐人町」駅より徒歩約7分)での開催を予定しています。お楽しみに！





## お米のサラダ

### ●材料 (4-6人分):

きゅうり	2本	とうもろこし	1/2缶
ゆで卵 (L)	2個	カニカマ	150g
ご飯	180g	マヨネーズ	50-90g
玉ねぎ	1/4個	塩、コショウ	適量

### <作り方>

- 炊いたご飯を冷まして水で洗う。
- きゅうりは5ミリ角に切って、水気を切る。
- 玉ねぎはみじん切りして水につけてからザルにあげ、水気を切る。
- ゆで卵は白身と黄身に分けてみじん切り、カニカマは5ミリに切る。
- とうもろこしを缶から出して水を切る。
- 1~5の材料(黄身を除く)をボウルに入れて、マヨネーズを加え、塩、コショウで味を整える。
- 器に盛って黄身とディルを散らして出来上がり!

切った野菜はキッチンペーパーなどでしっかり水気をとりましょう。ディルはロシア料理でよく使われる香草です。日本では輸入食品を扱うお店などで乾燥したタイプのものを購入できます。写真はペラルーシの市場で見かけた生のディル。ロシア語ではウクロップといいます。



## ボルシチ

### ●材料 (4-6人分):

鶏もも肉	300g	ローリエ	1枚	ビーツ缶(ホール)	1/2缶
チキンコンソメ	大さじ1	玉ねぎ	1/2個	塩、コショウ	適量
キャベツ	1/4玉	にんじん	1/2本	ディル	適量
じゃがいも	5-6個	水	1.5L	サワークリーム	適量
		トマト缶(ホール)	1/2缶		

### <作り方>

- 材料を切る。  
●鶏肉:2-3cmの角切り、●キャベツ:2.5cmの角切り、●じゃがいも:6~8等分、●玉ねぎ:うす切り、●にんじん:千切り、●ビーツ:大きめのスライサーで切る(煮汁も使います)、●トマト:ペースト状にする
- 鍋に分量の水を入れ、コンソメを加えて火にかける。
- フライパンを火にかけ、角切りした鶏肉を炒める。このとき油は使いません。
- 鍋が沸騰したらキャベツを加える。再び沸騰したらじゃがいもを加える。
- 3の鶏肉を鍋に入れる。そのフライパンの残り汁で玉ねぎとにんじんを炒める。
- 5の玉ねぎとにんじんが柔らかくなったら、トマトを加えてさらに炒め、鍋に入れる。
- じゃがいもが柔らかくなったら鍋の火を止め、ローリエを加える。塩・コショウで味を調べ、10分置く。
- ビーツを鍋に入れ、少し温める。
- 皿に盛り、ディルとサワークリームをかけて出来上がり!

今回のレシピは鶏肉を使ったボルシチですが、豚肉を使ったり、牛肉を使ったり、他の野菜も色々使われていたり、各家庭の味があります。日本のお味噌汁みたいですね。

ボルシチは作ってから時間をおいたほうがまるやかな味になります。急ぐ場合は、フライパンでバター80~90gを溶かしながら小麦粉30gを加え、焦がさないように色がつくまで混ぜます。そこに適量の水を加えペースト状にしたものを写真のように漉しながら鍋に加えていきます(6の後)。

またビーツは食べるごとにその都度適量を加えていったほうが、より鮮やかな色合いを保つことができますよ。



2015年1月の料理教室では、メインディッシュにストロガノフを予定しています。



# 理事の すっぴん部屋

第三回  
寺嶋悠×平川可南子



今回は寺嶋理事の暮らす熊本県球磨郡五木村を訪問。五木産の鹿肉など、珍しい料理に舌鼓を打ちつつ、ベラルーシ訪問時の思い出などについて語り合いました。

## PROFILE

**寺嶋悠(てらしまゆう)**/左

3月23日生まれのおひつじ座。高校時代の編集ボランティアをきっかけに活動に参加。現在は五木村で観光関連の仕事に携わる。愛酒は白ワイン(辛口)。

**平川可南子(ひらかわかなこ)**/右

10月11日生まれのてんびん座。ボランティア体験プログラムを皮切りに数々の催しに参加し、ついには理事に就任。旅行が好きでベラルーシに二度も訪問したガッツあふれる大学院生。

活動の様子とか  
雰囲気とか  
覚えてますか？

**寺嶋** ストーリー  
ン地区での検  
診に何度か参  
加しましたが、  
行くたびに  
色々なことが

か、どうすれば会員さんと現地  
をつなぐことができるのか、そ  
れを考えていかなければいけ  
ないですね。

**平川** そうですね。私は2回ベラ  
ルーシに行きましたが、その中  
でまずは自分がベラルーシを知  
ることを意識しています。ベラ  
ルーシがどういう風景で、人々  
はどのような生活をして、と  
か。医療の面だけじゃなくて、  
文化面とか生活面も会報の紙  
面等を通して伝えていければい  
いなと。そうすれば、支援してい  
る国や人について具体的に分  
かってより身近に感じてもらえ  
るのかなと思っています。

**寺嶋** 2回行ったベラルーシの中  
で印象に残っていることは？

**平川** 昨年モギリヨフに行ったと  
きに、赤十字のドライバーの方  
と仲良くなったことですね。折  
り紙を作って渡したら、とても  
喜んでくれて。日本に帰ってか  
ら写真を送ったらメールが  
返ってきたりして。現地の人と  
直接話す機会って意外と少ない  
ので、楽しかったですね。

**寺嶋** ちなみに、モギリヨフって  
どんな町でした？ 私、行った  
ことなく。

システムチックに検診をするだけ  
でも、ここまで大変な苦労なのか  
と思いました

**平川** 初めてベラルーシに着いた  
ときは空港が暗くて驚きまし  
た。他の国にも行ったことある  
んですが、こんな感じだった  
雰囲気は初めてで…。悠  
さんはCMNの活動に関わって  
長いですが、活動初期の頃のベ  
ラルーシってどんな感じだった  
んですか？

**寺嶋** 最初に行ったのは1996

年のスタディーツ  
アーでした。大  
きな村の診療所と  
いわれるところに  
行きましたが、本  
当に何も無い。棚  
の中にちよこちよ

こ物が置いてあって、看護師さ  
んみたいな人がいるだけで。被  
災地や汚染地のどこでもこんな  
状態なら本当に大変だろうな  
と。現地の移動検診チームがい  
るから患者さんを早く診られる  
けど、それがなかったら、日本の  
団体、私たちがやっていること  
も焼け石に水とまでは言わない  
けれども、一単位にしかならな  
かったらと思うます。

**平川** プレスト州立内分秘診療  
所の皆さんはずっと検診活動を  
続けているんですよ。当時の

## 医療だけじゃないベラルーシを 知ってほしい

最初はほんとに何もなくて、何  
もないとこんなものなのかと感  
じましたね。

**寺嶋** 最後に私がベラルーシに  
行ったのが2010年で、その  
後は行けていないですけど、行  
けない中でもどうしたらいいの



左) 2013年秋のベラルーシ訪問。赤十字ドライバーのセルゲイさんと記念写真  
 右) チェルノブイリ20年の国際会議にて、プレスト州での甲状腺がん検診プロジェクトについてプレゼン(2006年)

平川 着いた日が雨でとても寒かったというのもあるかもしれませんが、ミンスクやゴメリに比べて暗くて、さみしい感じがする町でしたね。町の人がなんというか、ちょっと閉鎖的だなと思います。だからこそ、そういうふれあいがあったのが印象に残ったのかもしれない。

### 小さい団体だからこそできる顔の見える支援を

平川 またベラルーシに行く機会があれば何を一番したいですか？

寺嶋 現地に行って取材をしたい

ですね。年に一度そのタイミングで聞かないと分からないことがたくさんあるから。一年の中でその日にしか聞くことのできないことを聞いて、そして伝えていければいいと思いますね。ただの訪問報告ではなくて、新たな動きとか、まだ知らないこととか。私たちは会員さんの代理で現地へ行っているわけなので、私たちが感謝されるのではなくて、現地の人からの感謝を会員さんに届けるためにはどうしたらいいのかを常に考えていますね。

平川 年に一回のベラルーシ訪問は現地の生の声を知るための貴重な時間ですが、それをどう会員さんたちに伝えていくかは今後の課題でもありますね。私はまだまだベラルーシについて知らないことが多いので、まずは自分が知ることから始めて現地の声の背景にあるものも含めて理解していきたいと思います。悠さんは今感じている活動の課題や、伝えていきたいベラルーシの姿などはありますか？

寺嶋 やはり毎回同じ訪問の報告だと、何年前と比べて何が良くなっているのか分かりにくい

ですよ。今の活動を何年間続けて、この先5年とか10年の見通しとかも作っていきつつ、その節目節目で会員さんと一緒に考えていきたい。会員さんにはやっぱり新しいCMNを見てほしい。そしてチェルノブイリだけじゃないベラルーシも知ってほしい。私も実際に現地に行く前は、写真集のモノクロの静かで悲しいイメージだったけど、行った先ではみんなが踊って歓迎してくれて。血の通ったというか、文化の多様性とか深さとか、そういう面も知ってほしいと思うし、そういう文化・歴史あつてのところに起きたチェルノブイリも知ってほしい。

平川 そうですね！ベラルーシの人の一年の暮らしとか紙面で追いかけると面白いかもしれないですね。どのような思いで日々の生活を営んでいるかとか。

寺嶋 やっぱり位置情報を知りたいですよ。私たちのフィルターを通してではなく、こういう暮らしの中のこのような部分を支援しているんだという情報とか。小さい団体だからこそできる顔の見える支援を続けていきたいですね。



## ☺☆☆ コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ☆☆☆

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？  
 期間中、商品(コーヒー、紅茶、のぞみ21雑貨、カレンダー、震災支援グッズなど)を合計5千円以上ご注文いただいた先着15名の方に、ベラルーシのお土産をプレゼントします！

**期間** 2014年 12月1日(月)～12月15日(月)まで

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。お買上げ総額5000円以上で送料無料となります。



# たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

浅原望樹 石橋啓子 今井亜紀子 大園広子 岡野祐子 梶原孝子 飯屋園幾代・今日花・昴介・栞 久保力三子 古賀千種 笹栗双美子 貞池和恵 高橋武三 竹内徳子 田中幸村 中村順子 野中孝子 引田良子 樋水カツ子 深田俊江 深堀ミチ子 松井真知子 丸山さより 宮田京子 村上和代 めぐみ保育園 森悠子 山浦真弓 過定智子

## 〔都道府県別〕

【北海道】 1名 【福島県】 1名 【東京都】 3名  
 【神奈川県】 1名 【埼玉県】 1名 【三重県】 1名  
 【滋賀県】 1名 【大阪府】 2名 【兵庫県】 1名  
 【島根県】 2名 【広島県】 3名 【山口県】 8名  
 【愛媛県】 1名 【福岡県】 41名 【佐賀県】 1名  
 【長崎県】 3名 【熊本県】 4名 【大分県】 4名  
 【宮崎県】 1名 【鹿児島県】 4名

計84名(匿名含む)

## ●マンスリーサポーターの皆さん

相羽美香子 磯道綾子 瀨和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 上田英子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 渡藤宇企子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子 坪川裕子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永江之子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西井

合計	517,584円
活動支援金	395,584円
のぞみ21カンパ	32,250円
雪だるま3号カンパ	27,250円
東日本支援カンパ	62,500円

えりな 西首延子 丹羽道代 納富育代 廣松初美 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松井真知子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村田聡子 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 矢野和代 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 吉丸隆子 渡邊久美子 渡邊真志子  
 計126名(匿名含む)

(2014年8月1日〜10月31日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨・支援コーヒー・紅茶等の購入を通じて活動を支援して下さいました。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。)

★この度のベラルーシ訪問事業に際し、武藤化学薬品株式会社さまより、甲状腺がん検診用の消耗器具、検査試薬を寄贈していただきました。心よりお礼申し上げます。

★ベラルーシ関係諸機関への支援内容は次のとおりです。

### ■ベラルーシ赤十字

検診車「雪だるま2号」維持費・15000ドル

### ■ミンスク10番病院

医療機材等購入費・10000ドル

### ■プレスト州立内分秘診療所

医療機材等購入費・2000ドル

### ■NGO「コンフィデンス」(ミンスク)

活動運営カンパ・9000ドル

### ■福祉工房「のぞみ21」(ゴメリ)

工房運営カンパ・12777ドル



## 皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●何年たっても放射能から開放されないこと、つらいですよね。●お世話になりました。いいコーヒーの香りがしています！●少しですがお役に立ちますように。●カレンダーも別便で注文したいと思います。●原発はいりません!!●原発がなくなる日を作ります。●いつも少なくてごめんなさい。●間があいていましたでしたが、また送らせていただきます。暑い日が続きますが、活動頑張ってください。●福島の方々の気持ちを思うと胸が熱くなります。心はいつも寄り添ってたいです。●世界が平和でありますように。●カルロスさんのコーヒー、南インド紅茶、ほんとにおいしいです。(のぞみ21)の布物も大判で使い勝手があります。ありがとうございます。●Have a happy day!

## ●お詫びと訂正

前号にて掲載内容に誤りがありました。改めて掲載させていただきます。<木村真三先生講演会・報告/5p.1段目>(誤) 500キロはだいたい名古屋のあたりです。(正) 500キロはだいたい滋賀県の彦根のあたりです。

## 編集後記

本紙でも宣伝させていただいた「ヘアサロン・スネガビーク」ですが、台風接近のため今年は中止となりました。楽しみにしていただけいた皆さまには大変申し訳ありませんでした。来年度も会員の皆さまと被災地とをつなぐ事業を展開すべく、スタッフ一同頑張ります。(み)